

調査の概要

- 1 根拠要領：神奈川県年齢別人口統計調査事務処理要領
- 2 調査時期：令和2年1月1日午前零時現在
- 3 調査方法

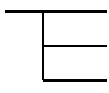
この調査は、平成27年国勢調査の調査票情報を独自集計した年齢別人口を基礎とし、市町村長の報告に基づく住民基本台帳法及び戸籍法に定める出生、死亡、転入、転出の年齢別異動人口を加減して毎年1月1日現在の年齢別人口を算出し、県でとりまとめたものです。


4 地域別市町村名

地域名	市町村名
横 浜	横浜市
川 崎	川崎市
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
県 央	相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
湘 南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
県 西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町

用語の解説

1 年 齢：調査日前日による満年齢

2 年齢（3区分）別人口 

3 年齢構造指数 

4 性 比：女性100人に対する男性の数

5 平均年齢の算出方法

$$\text{平均年齢} = \frac{\text{年齢(各歳)} \times \text{各歳別人口の和}}{\text{総人口} - \text{年齢不詳人口}} + 0.5 \text{ (満年齢後の経過月数調整値)}$$

(小数点第3位以下切り捨て)

利用上の注意

- 1 神奈川県年齢別人口統計調査は、国勢調査による年齢別人口を基礎として推計し、本県が昭和51年から毎年1月1日現在にて実施しているものであり、本報告書に使用しているそれより前の数値は、総務省が大正9年から5年ごとに実施している国勢調査結果（各年10月1日現在）を使用しています。
- 2 年齢不詳は、平成27年国勢調査の数値で、国勢調査の中間年次（平成28年～令和2年）はその数値となります。
- 3 全国の数値は、「人口推計」（総務省統計局）(<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.htm#monthly>)を使用しています。
- 4 数字の単位未満は四捨五入してあり、合計の数字と内訳の計が一致しない場合があります。
- 5 解説中に用いている「ポイント」とは、比率の差を表します。「ポイント」は小数点第2位以下の数値で算出しているため、表上の数値と一致しない場合があります。
- 6 人口の総数には年齢不詳を含んでいますが、構成比は年齢不詳を除いて算出しています。
- 7 転入、転出には、県内市区町村間の移動を含みます。
- 8 該当数値がマイナスのものは、当該数値の前に「-」又は「△」を付けて表記し、該当数値がないものは、「-」で表記しています。

調査結果の概要

1 年齢（3区分）別人口

- (1) 令和2年1月1日現在の神奈川県内の総人口は、920万1825人(男性458万5811人、女性461万6014人)です。【表1、3、4参照】
- (2) 年齢（3区分）別人口は、年少人口（0～14歳）109万4402人、生産年齢人口（15～64歳）571万2800人、老年人口（65歳以上）231万1697人となり、老年人口が年少人口を121万7295人上回っています。昭和51年1月1日調査（調査開始年）と比較すると、総人口は、277万8991人増加しており、年少人口は54万6027人減少、生産年齢人口は127万5010人増加、老年人口は197万732人の増加となっています。
 なお、調査開始以来、年少人口は最も少なく、老年人口は最も多くなっています。【図1、表1、11参照】
- (3) 平成31年1月1日現在の調査（以下「前年調査」という。）に比べると、総人口は2万200人増加しており、年少人口は1万1739人減少（平成22年1月1日以降対前年11年連続減少）、生産年齢人口は8546人増加（対前年2年連続増加）し、老年人口は2万3393人増加し調査開始以来一貫して増加しています。【図2、表1、6、11参照】
- (4) 年齢（3区分）別人口の構成比は、前年調査に比べ、年少人口は0.2ポイント低下し12.0%（全国値12.0%）、生産年齢人口は横ばいで62.6%（同59.4%）、老年人口は0.2ポイント上昇し25.4%（同28.5%）です。【図3、表1、6参照】
- (5) 年齢構造指数は、前年調査に比べ、年少人口指数は0.2ポイント低下し19.2、老年人口指数は0.3ポイント上昇し40.5。従属人口指数は0.1ポイント上昇し59.6で、生産年齢人口100人に対して年少人口及び老年人口が59.6人の割合となります。
 また、老年化指数は前年調査に比べ4.4ポイント上昇し211.2で、年少人口100人に対し老年人口211.2人の割合となります。
 昭和51年の調査開始以来、年少人口指数は最も低く（平成28年1月1日以降対前年5年連続低下）、従属人口指数は最も高くなっており（平成7年1月1日以降対前年26年連続上昇）、老年人口指数及び老年化指数は一貫して上昇しています。
 なお、全国値は年少人口指数20.2、老年人口指数48.0、従属人口指数68.2、老年化指数237.0であり、県はいずれの数値も全国値より低くなっています。【図4、表2参照】

年齢（3区分）別人口及び構成比

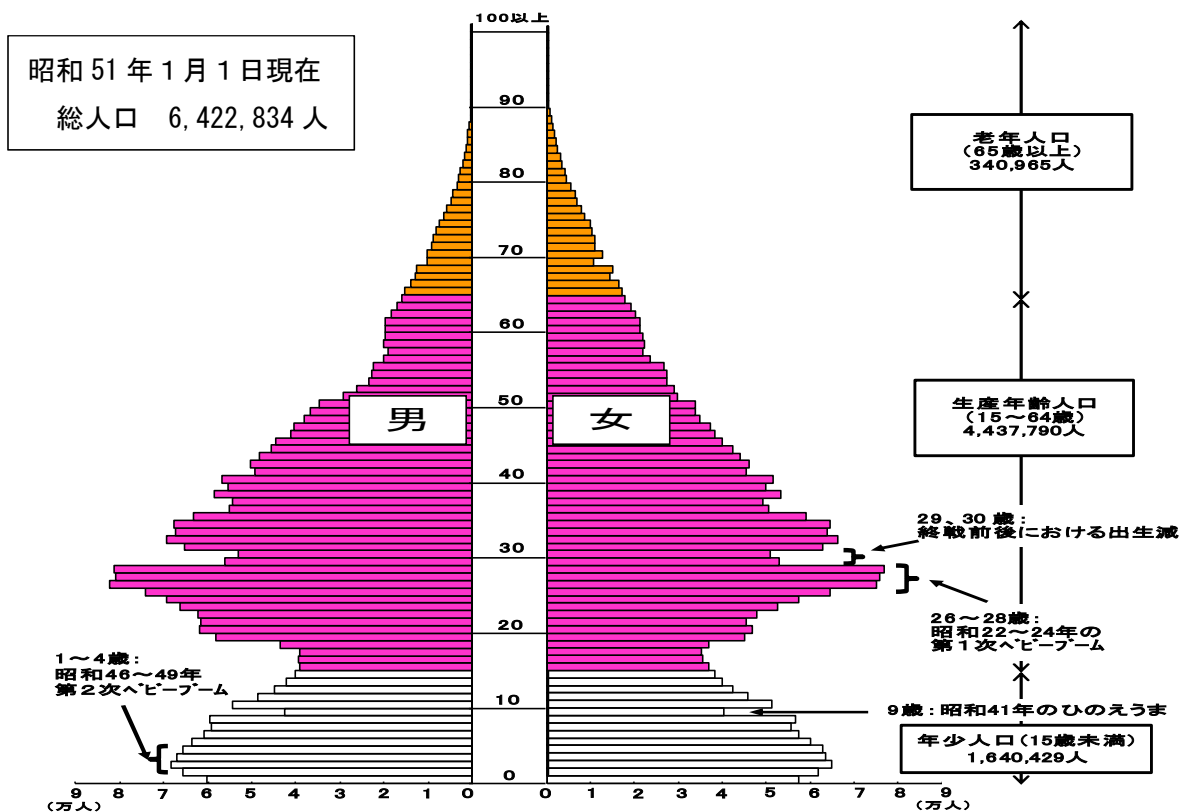
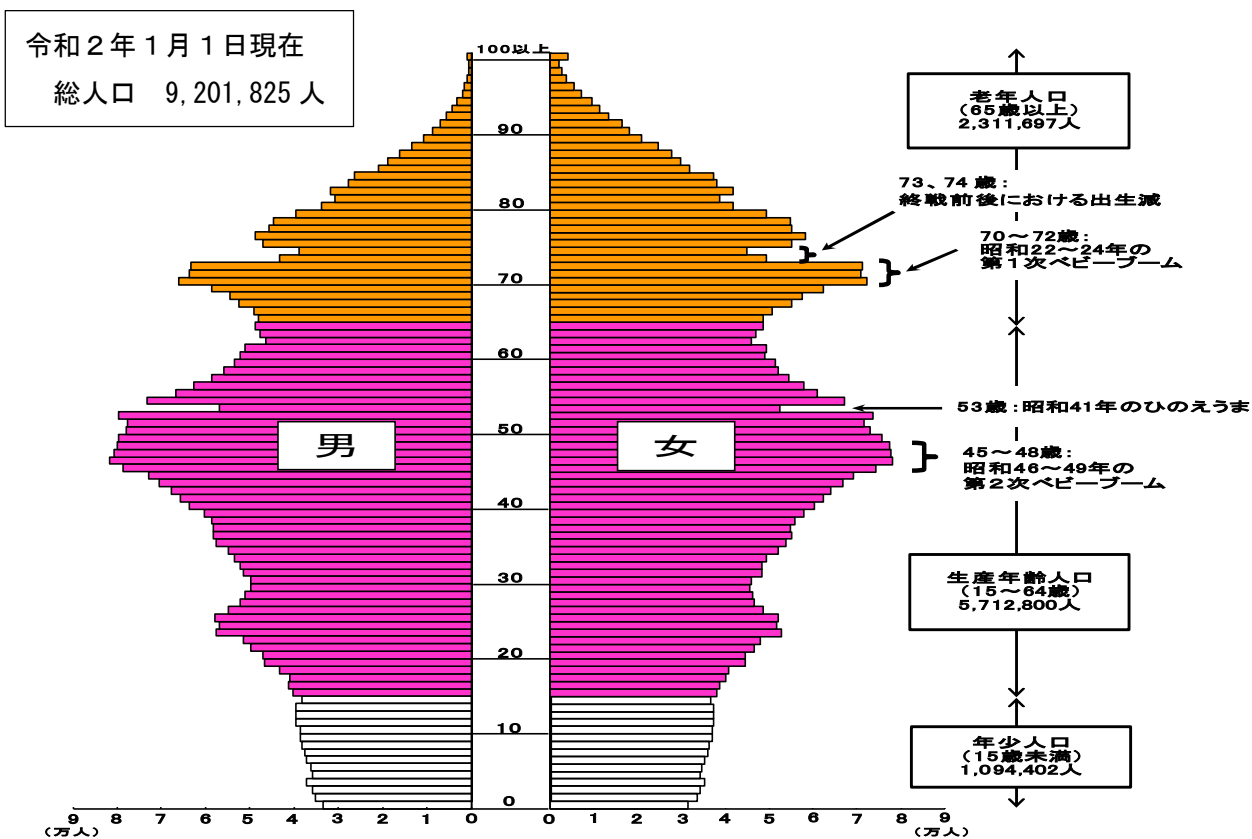
年齢（3区分）	令和2年		平成31年		増減		全国（令和2年）	
	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比の差(ポイント)	人口(万人)	構成比(%)
総数	9,201,825	-	9,181,625	-	20,200	-	12,599	100.0
年少人口 (0～14歳)	1,094,402	12.0	1,106,141	12.2	△11,739	△0.2	1,516	12.0
生産年齢人口 (15～64歳)	5,712,800	62.6	5,704,254	62.7	8,546	△0.0	7,490	59.4
老年人口 (65歳以上)	2,311,697	25.4	2,288,304	25.1	23,393	0.2	3,593	28.5

(注) 1 県の人口総数は、年齢不詳を含むため、内訳と一致しない。構成比は年齢不詳（82,926人）を除いて算出している。

2 ポイントは小数点第2位以下の数値で算出しているため、表上の数値と一致しない場合がある。

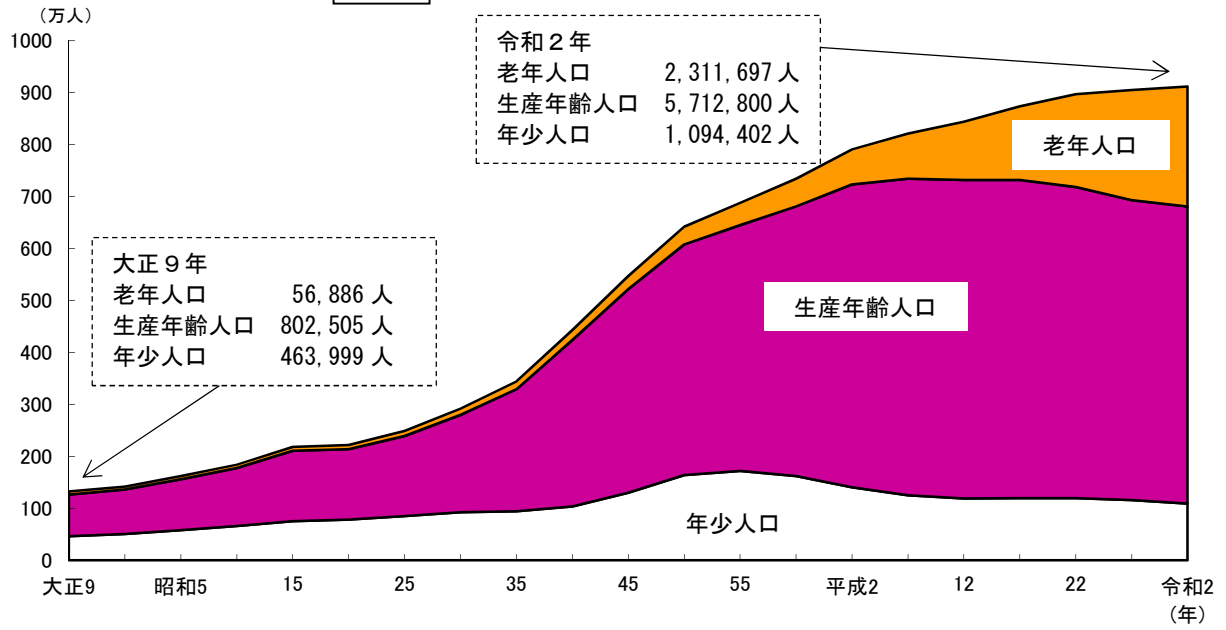
人口ピラミッド〈年齢（各歳）、男女別人口〉

図1 (昭和51年（神奈川県年齢別人口統計調査開始年）との比較)



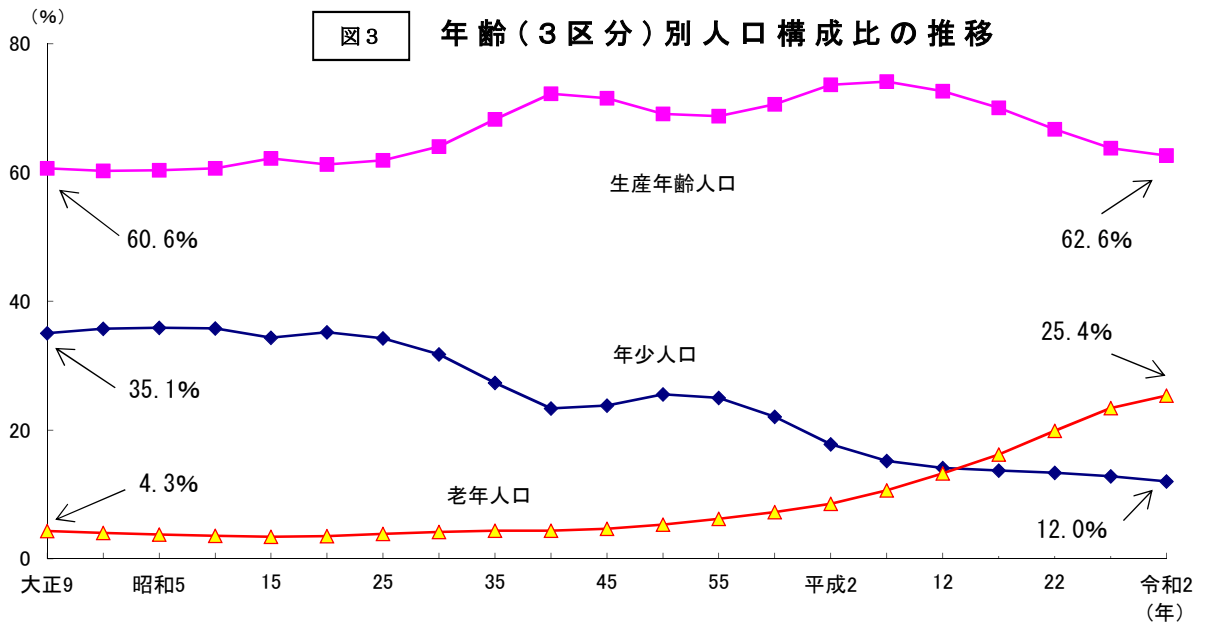
※人口ピラミッドには年齢不詳は含まない。

図2 年齢(3区分)別人口の推移



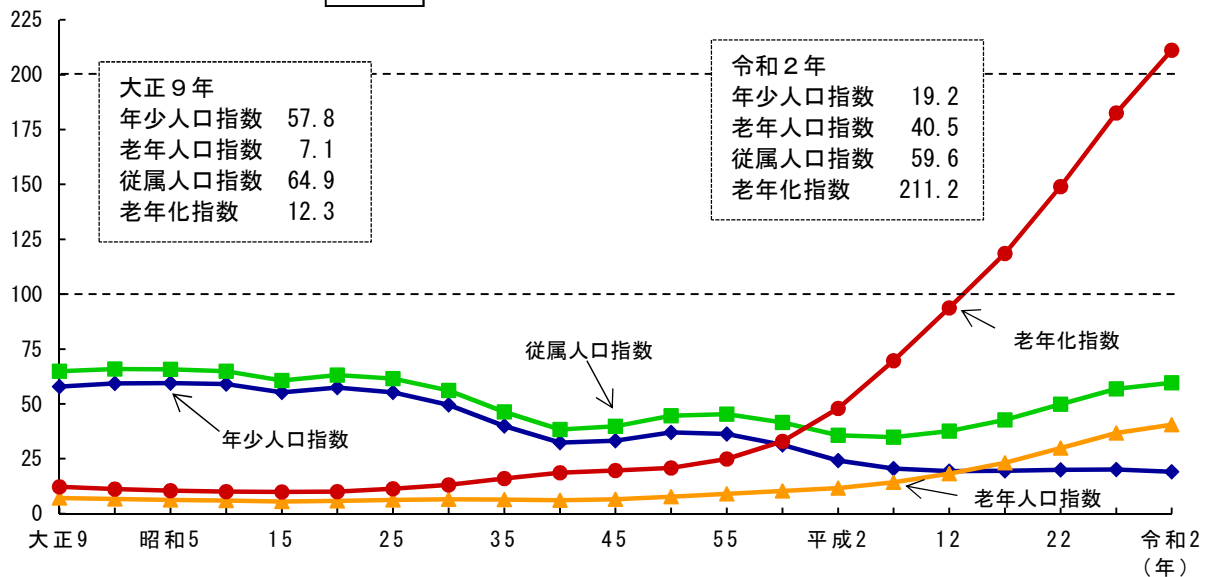
(注) 大正9年から昭和50年までは、国勢調査結果(以下同じ)。

図3 年齢(3区分)別人口構成比の推移



(注) 構成比は年齢不詳を除いて算出しています。

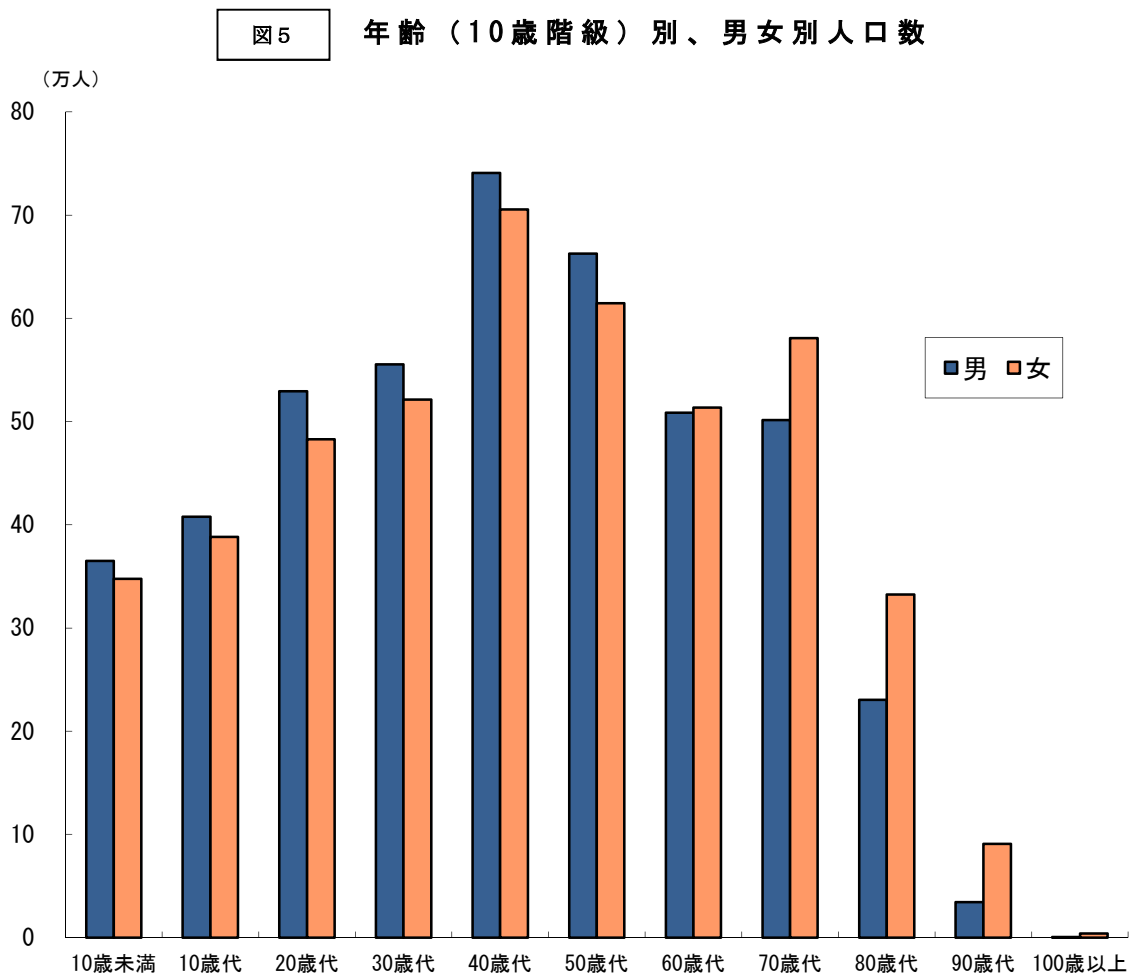
図4 年齢構造指数の推移



2 年齢（10歳階級）別人口

- (1) 年齢（10歳階級）別人口は、40歳代が144万6403人（人口構成比15.9%）と最も多く、次いで50歳代の127万7590人（同14.0%）、70歳代の108万2155人（同11.9%）の順となっています。【表3参照】
- (2) 前年調査より10歳未満、10歳代、30歳代、40歳代、60歳代の人口は減少し、20歳代、50歳代と70歳代以上の年齢階級は増加しています。【表3参照】
- (3) 男女別人口でみると、男性では40歳代が74万763人（男性に占める割合は16.3%）と最も多く、次いで50歳代の66万2796人（同14.6%）、30歳代の55万5265人（同12.2%）の順となっています。
女性では40歳代が70万5640人（女性に占める割合は15.4%）と最も多く、次いで50歳代の61万4794人（同13.4%）、70歳代の58万798人（同12.7%）の順となっています。

【図5、表3参照】



3 性 比

- (1) 総人口を男女別にみると、男性が458万5811人、女性が461万6014人で、女性が3万203人多く、性比（女性100人に対する男性の数）は99.3で、前年調査に比べると0.1ポイント低下していますが、全国値（94.8）と比べると4.5ポイント上回っています。
なお、昭和20年を除き、大正9年から平成26年（100.1）までは100以上でしたが、27年（99.9）から100未満となっています。【図6、表4参照】
- (2) 年齢（5歳階級）別の性比は、0～4歳から60～64歳までは100以上であり、25～29歳が111.2と最も高く、続いて20～24歳、50～54歳が108.1です。一方65～69歳以上はすべて100未満であり、65～69歳は95.8。年齢が高くなるにつれ低くなり100歳以上は17.4です。
また、神奈川県は全国よりほぼすべての年齢階級で上回り、55～59歳が7.6ポイント（全国値99.8）と最も上回っています（5～9歳、10～14歳は下回る。）。【図7、表4参照】

図6 性比の推移

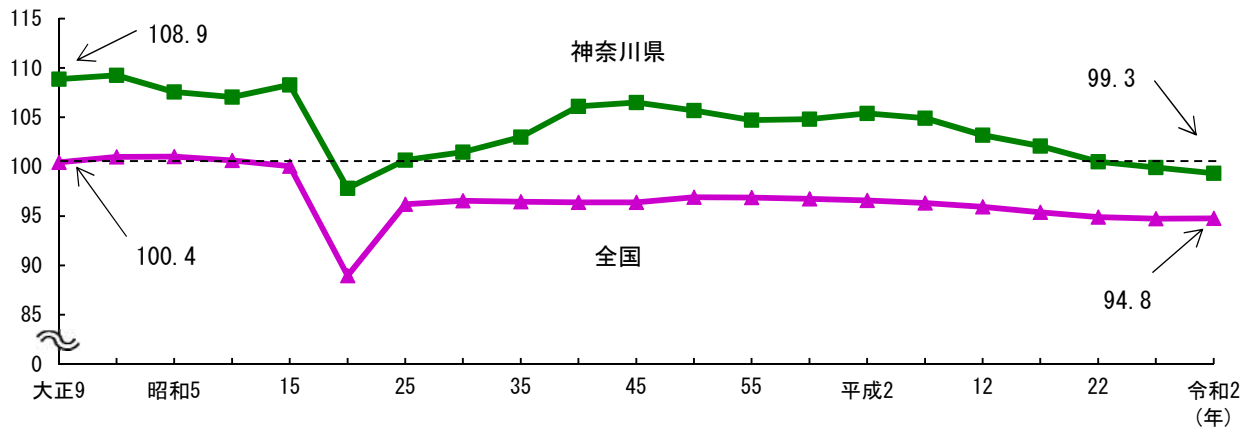
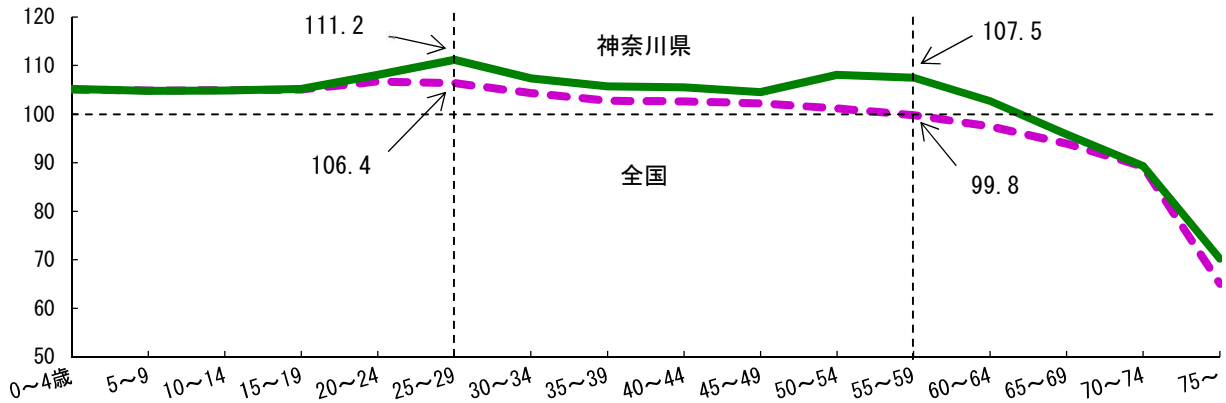


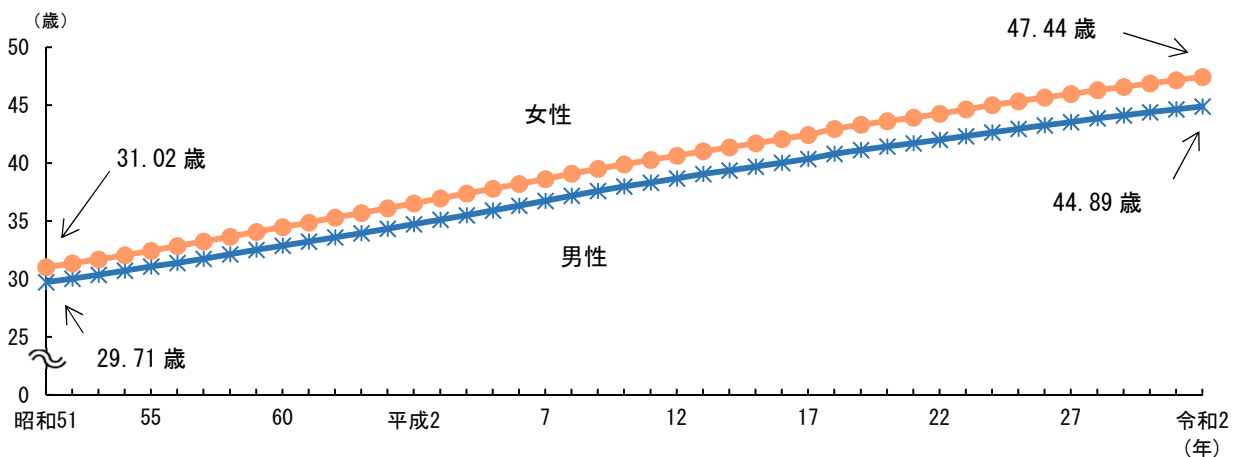
図7 年齢（5歳階級）別性比



4 平均年齢

- 平均年齢は46.17歳で前年調査に比べ0.26歳高くなっています。【表5参照】
- 男女別平均年齢は、男性が44.89歳(前回調査に比べ0.25歳上昇)、女性が47.44歳(同0.28歳上昇)で、男女を比べると女性が2.55歳高くなっています。なお、昭和51年(調査開始年)から男女ともに一貫して上昇しています。【図8、表5参照】
- 県内6地域別の平均年齢が最も高い地域は横須賀三浦地域で49.68歳、次に県西地域で49.62歳。最も低い地域は川崎市で43.56歳、次に横浜市の46.05歳となっています。
また、市区町村別では真鶴町(55.99歳)が最も高く、中原区(41.14歳)が最も低くなっています。【表7、10参照】

図8 男女別平均年齢の推移



5 地域別、年齢（3区分）別人口の構成比

- (1) 地域別の年齢（3区分）別人口構成比の状況は、年少人口の構成比が最も高い地域は川崎市で12.5%、次に湘南地域で12.3%。最も低い地域は県西地域で10.8%、次に横須賀三浦地域で10.9%です。

また、市区町村別では都筑区（15.3%）が最も高く、箱根町（6.3%）が最も低くなっています。

【図9、表6、10参照】

- (2) 生産年齢人口の構成比が最も高い地域は川崎市で67.3%、次に横浜市で63.3%。最も低い地域は横須賀三浦地域で56.9%、次に県西地域の57.1%となっています。

また、市区町村別では中原区（71.7%）が最も高く、湯河原町（49.4%）が最も低くなっています。

【図9、表6、10参照】

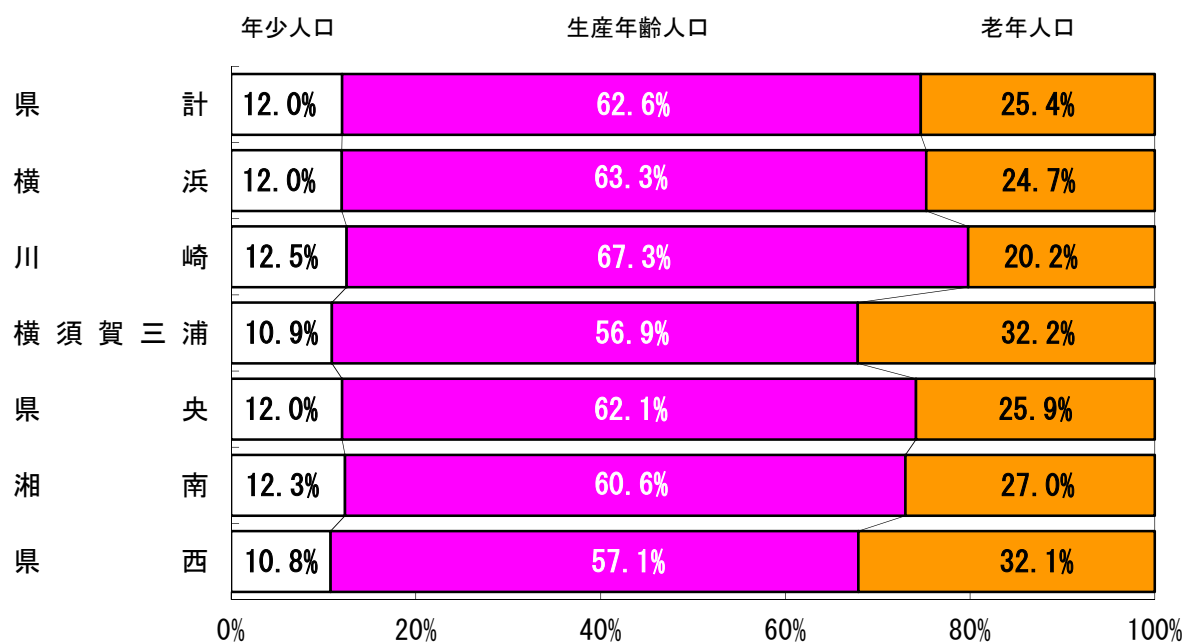
- (3) 老年人口の構成比が最も高い地域は横須賀三浦地域で32.2%、次に県西地域で32.1%。最も低い地域は川崎市で20.2%、次に横浜市で24.7%となっています。

また、市区町村別では湯河原町（42.8%）が最も高く、中原区（15.2%）が最も低くなっています。

【図9、表6、10参照】

図9

地域別、年齢別（3区分）別人口の構成比



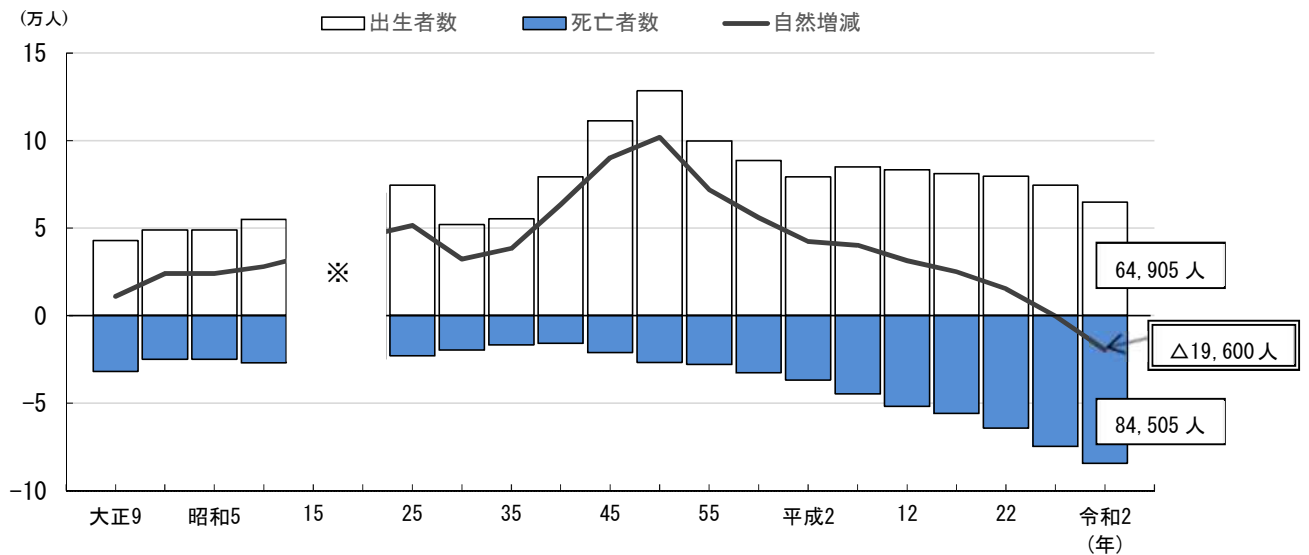
6 年齢別異動人口

- (1) 平成31年・令和元年中の人口増減は2万200人増で、その内訳は自然増減が1万9600人減、社会増減が3万9800人増となっています。【表12参照】
- (2) 自然増減[出生者－死亡者](1万9600人減)は、出生者が6万4905人、死亡者が8万4505人となっています。【図10、表12参照】
- (3) 社会増減[転入者－転出者](3万9800人増)は、転入者*が51万4781人、転出者*が47万4981人となっており、年齢5歳階級の社会増減は、20～24歳が1万6610人増と最も大きく、続いて15～19歳が7330人増となっています。【表12参照】
- (4) 年齢(10歳階級)別転入・転出者数は、60歳代の年齢階級で転出超過(社会減)となり、その他の年齢階級で転入超過(社会増)となっています。

なお、20歳代が転入者(19万3134人)転出者(16万9725人)ともに最も多く、次に30歳代が転入者(12万1154人)転出者(11万7388人)ともに多くなっています。【図11、表13参照】

※ 転入、転出には、県内市区町村間の移動を含みます。

図10 出生・死亡者数及び自然増減数の推移



※この間の出生・死亡者数は集計がありません。

図11 年齢(10歳階級)別転入・転出者数

